

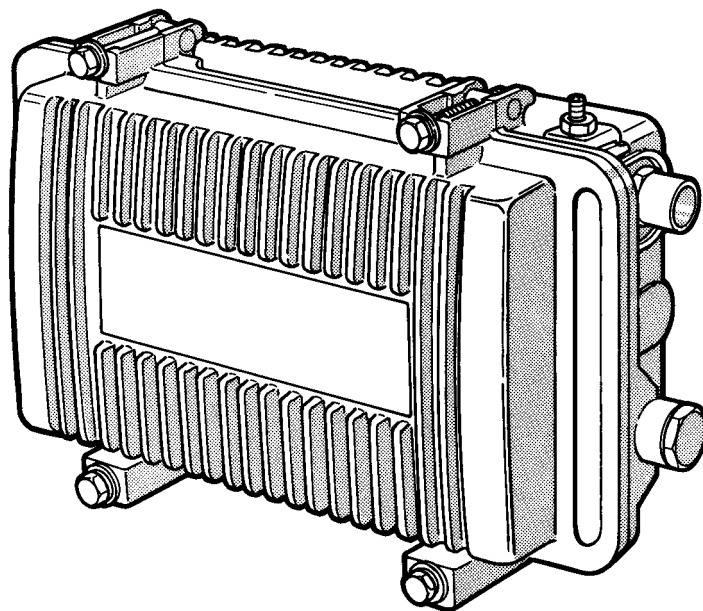
取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



CATV用光受信器(70~250MHz帯) ORX-3001



製品の特長

- 70~250MHzのTV信号11波を、O/E変換し、伝送することができます。
- システムの伝送距離は10km以上です。
- LEDにより、光入力の状態を確認できます。
- 小形軽量のダイカストケースを採用し、放熱効果にも優れています。(全高200mm)
- シリコンパッキンの採用により、防水は確実です。
- 電磁シールドの採用で、電波漏洩対策も万全です。
- AC20~30V、AC40~60Vの両施設に使用できます。
- 心線ネジ止式コネクタの採用で、RF出力端子AC60V10Aまで通電できます。また、本体結電端子は、AV60V12Aまで通電できます。
- 通電切換プラグの操作で、RF出力端子での受・給電ができます。
- EQ、GC出力レベル設定ユニットの操作により、システム設計が容易にできます。

安全上のご注意



△記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は注意して行なってください)が描かれています。



警告

この内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



- この製品は信号伝送にレーザー光を使用しています。レーザー光は非可視ですが、光出力端子をのぞき込んだり、光ファイバを接続する場合などに、直接レーザー光が目に入らないようにしてください。目を損傷する原因となります。



レーザー光注意

- 表示された電源電圧(交流20～30ボルトまたは交流40～60ボルト)以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



- この製品の本体を直径1.6ミリメートルの銅線で接地してください。接地しないと避雷や保護接地の効果なくなり、被雷して火災や故障の原因となります。



- 高所に設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- 風の強い日や、雨、雪、雷などの天候の悪い日は、危険ですから設置工事や点検をしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。通電形機器を挿入する場合は、通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには、電流が流れることがありますので、製品と接栓の接続および接栓と同軸ケーブルの接続で、心線と外部導体がショートしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- この製品に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



- この製品を設置・点検・調整した後は、正しく蓋を閉めてください。
水が入ったりして、火災・感電の原因となります。



- 万一内部に水が入った場合は、まずこの製品に給電している電源を切り、水をよく拭き取ってから、電源を供給してください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- この製品を分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに製品に供給している電源を切り、煙がでなくなるのを確認してCATV施設の管理者もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- 取り付けネジやボルトや接栓は、指定している力(トルク)で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- この製品の部品や工具類を高い所から落とさないでください。
けがの原因となります。

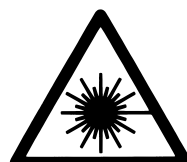
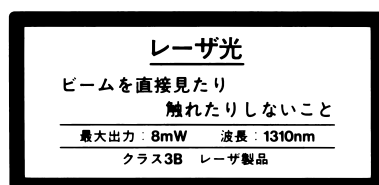


- 雷が鳴り出したら、この製品にはふれないでください。
感電の原因となります。

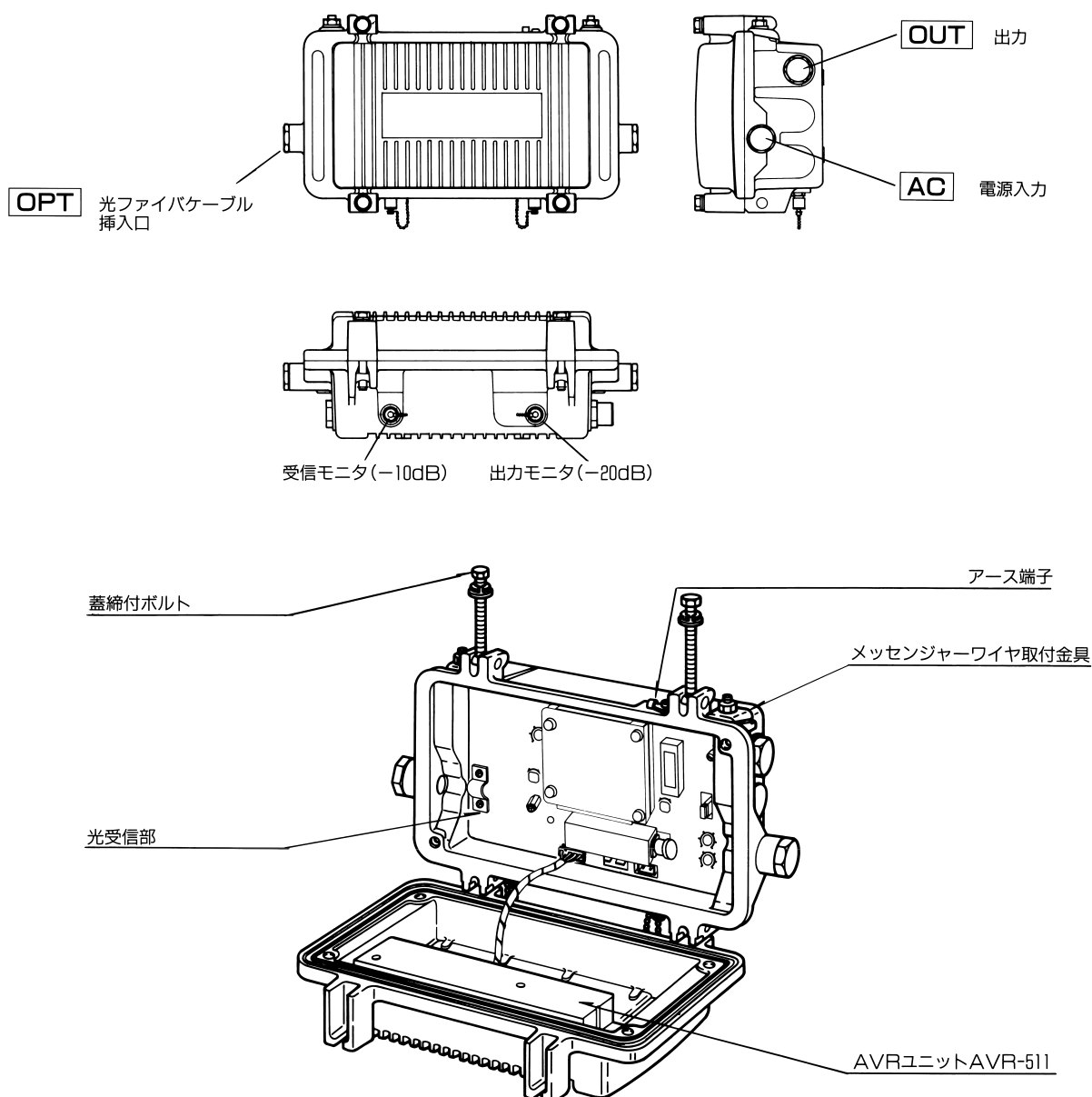


お取扱いの前に

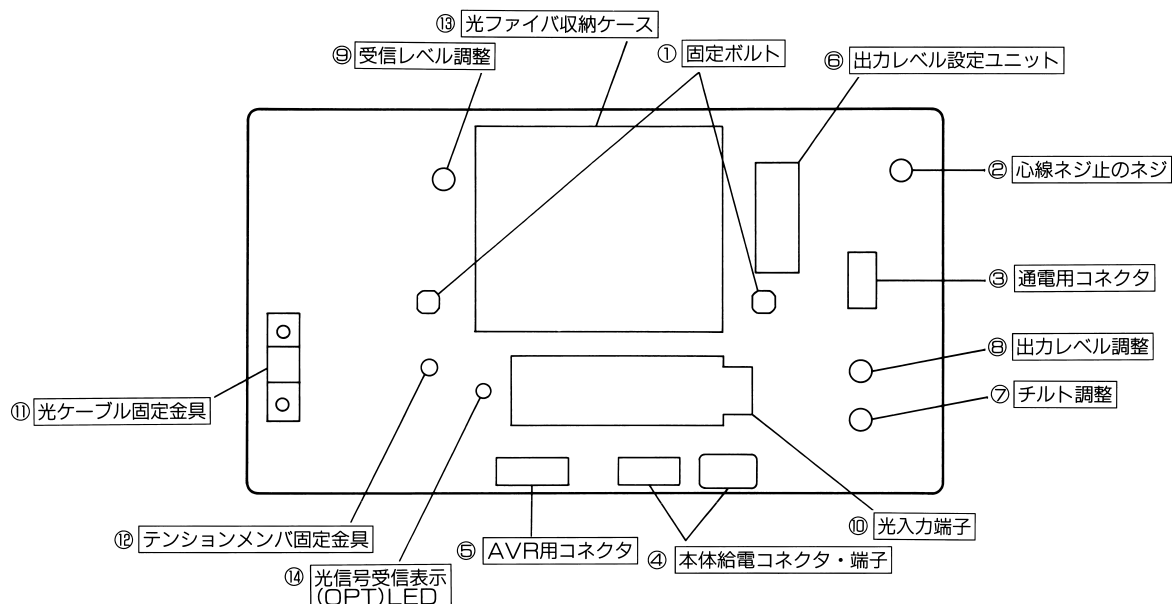
- 設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 高所や足場の悪い場所での設置作業では、安全に十分注意してください。
- 電源の供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後、行なってください。また、AC入力電圧や通電電流容量が規格値であることを確認した後、通電してください。
- この製品は、防曇形（防水形）ですが、蓋の締め付け不良や、接栓の接続不良などにより浸水することがありますので、正しく作業を行なってください。
- 通電切換や性能調整以外の電子部品は、故障の原因となりますので、絶対に手を触れないでください。
- レーザー光は非可視ですが、目に入ると目を損傷し、視力障害の原因となります。この製品の動作中には絶対に光出力端子や光ファイバをのぞき込まないでください。また光ファイバを接続する場合などに、直接レーザー光が目に入らないように十分注意してください。



各部の名称

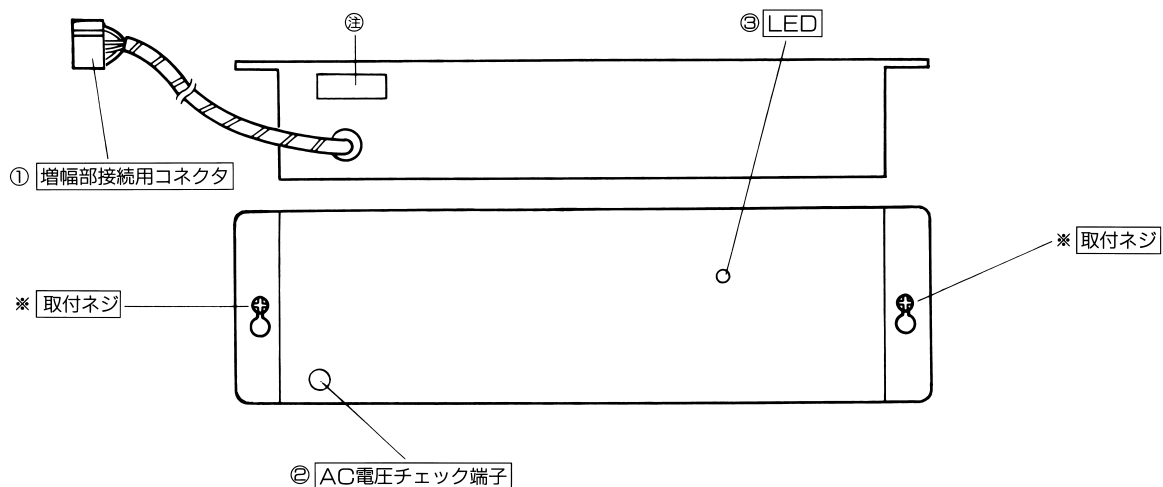


●付属品 光ファイバケーブル用防水コネクタ…… 1 個



- ①固定ボルト……………光受信部ユニットを取り出す場合、光ファイバを光入力端子からはずし、心線ネジ止のネジを緩めてから、固定ボルトを緩め、送信部を上に取り上げてください。（セットする場合は逆の作業を行なってください。）
- ②心線ネジ止のネジ……………出力端子の心線をネジ止めします。（送信部を取り出す時以外はさわらないでください。）
- ③通電用コネクタ……………出力端子の通電が、通電切換プラグの操作によりできます。
- ④本体給電コネクタ端子……………本体給電する場合に使用します。
- ⑤AVR用コネクタ……………AVRユニットを接続します。
- ⑥出力レベル設定ユニット……………出荷時、このユニットは、0 dB（パス）のBONが挿入されています。必要に応じてユニットをご注文ください。
- ⑦チルト調整……………250MHzを中心とし、90MHz値で±1 dB可変できます。
- ⑧出力レベル調整……………このボリュームで出力レベルの調整ができます。
- ⑨受信レベル調整……………受信信号のRFレベルを調整できます。受信モニターでレベルを確認しながら信号レベルが65dB μ （モニターレベル55dB μ ）となるように調整してください。
- ⑩光入力端子……………光ファイバを接続してください。コネクタは、FC形光コネクタ（JIS FO1形）です。ほこりやよごれのないよう注意してください。
- ⑪光ケーブル固定金具……………ダイカストケース内に引き込んだ光ファイバケーブルを固定します。
- ⑫テンションメンバ固定金具……………光ファイバケーブルのテンションメンバを固定してください。
- ⑬光ファイバ収納ケース……………光ファイバの余長分を収納します。
- ⑭光受信確認LED……………光信号を受信している時、点灯します。

〈AVR-511〉



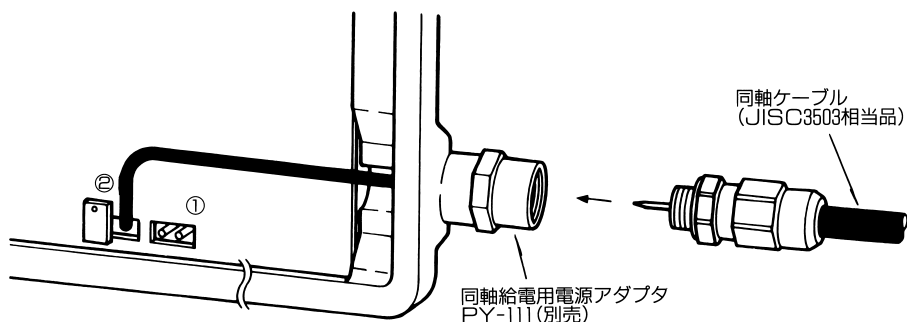
- ①増幅部接続用コネクタ…増幅部のAVR接続用コネクタと接続します。
 ②AC電圧チェック端子…AC電源電圧の確認ができます。
 ③LED…AC電圧を受電し、DC電圧を出力している場合に点灯します。
 ④この接続用コネクタはこの製品では使用しません。

〈AVR-511の交換方法〉

1. 増幅部接続用コネクタをはずす。
2. 取付ネジ※を緩めAVRユニットを上側にスライドさせる。
3. セットする場合は逆の作業を行ってください。

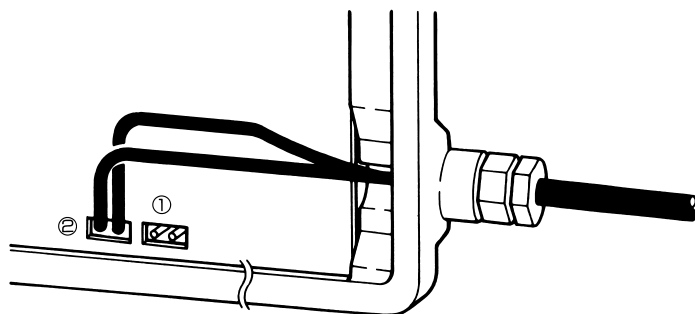
本体給電、ケーブル給電の方法

〈同軸ケーブルによる本体給電〉



- 同軸給電用電源アダプタPY-111
 (別売)をダイカストケース本体の電源挿入口に取り付け、先端のコネクタを本体給電端子②のホット側（盲板のない方）に接続してください。このアダプタを取り付ける際、シリコングリスを塗布したうえで締付トルクは1200N・cm(約120kgf・cm)で締め付けてください。

〈キャプタイヤケーブルによる本体給電〉



- 本体給電端子部の盲板をはずしてください。

〈出力端子への給電・ケーブル給電〉

- 通電用コネクタの通電切換プラグの操作で行います。



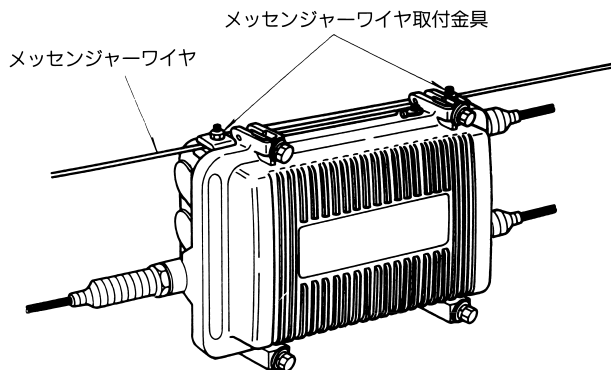
出力端子には通電されません。

出力端子に通電。

④は通電切換プラグの位置を示します。

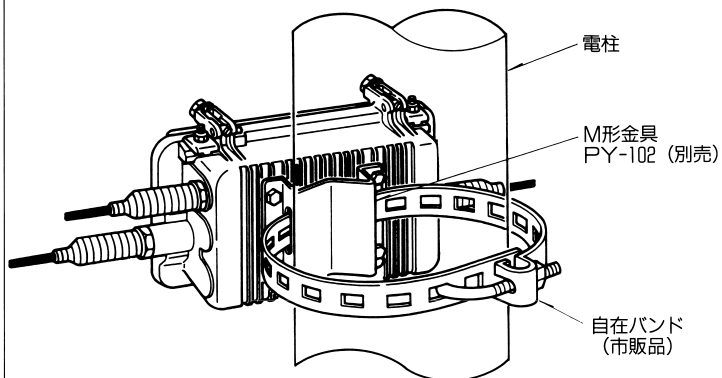
取付方法

<メッセンジャーワイヤへの取付け>



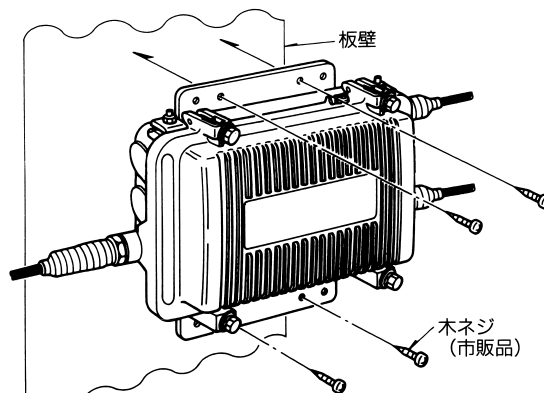
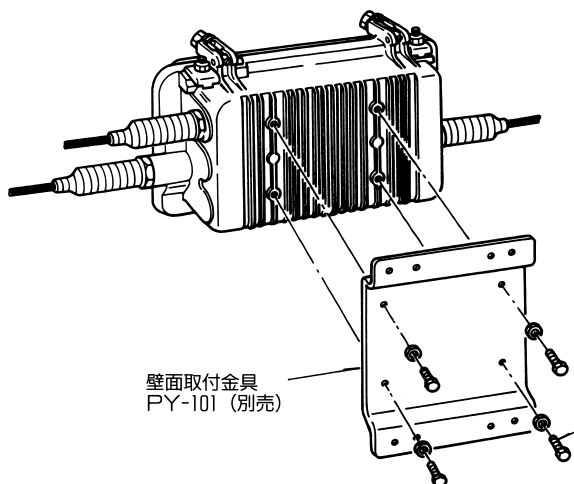
- 図のように2か所のメッセンジャーワイヤ取付金具でしっかりとメッセンジャーワイヤ (14~38mm²) に取り付けてください。

<電柱への取付け>



- 図のようにM形金具PY-102 (別売) に自在バンド (市販品) を通し、電柱にしっかりと取り付けてください。
(M形金具は別売となっております。また自在バンド市販のものをご使用ください。)

<板壁面への取付け>



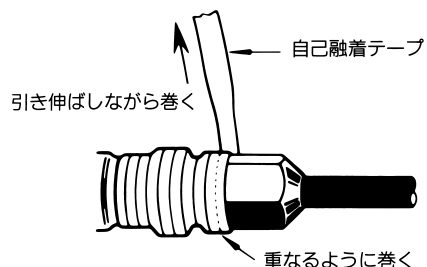
- 壁面取付金具PY-101 (別売) を4本のボルトでしっかりと本体に取り付けてください。
つぎに、大形の木ネジ4本 (市販品) で図のように壁面に取り付けてください。

(壁面取付金具は別売となっております。また木ネジは市販のものをご使用ください。)

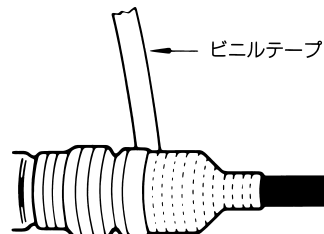
※光受信器は水平、垂直の傾きがないよう注意して取り付けてください。

また光受信器へのケーブルの接続はケーブル敷設後約1週間を経ってから行なってください。

接栓の防水処理



- 指でよく押さえ、融着を促進させます。

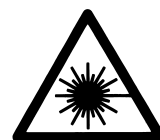
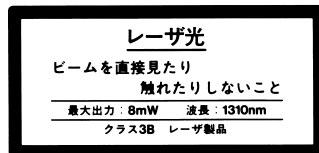


- ビニルテープを自己融着テープの上から巻き、自己融着テープ同様に指でよく押さえてください。

- F形接栓の場合も同様にテーピングしてください。

使用上のご注意

- レーザ光は非可視ですが、目に入ると目を損傷し、視力障害の原因となります。この製品の動作中には、光出力端子をのぞき込んだり、光ファイバを接続する場合などに、直接レーザ光が目に入らないように十分注意してください。
- 光ファイバの先端（コネクタ）が汚れたり、ほこりが付着すると、正常な伝送ができなくなる場合があります。その場合には、無水アルコールでよごれを拭き取ったうえで使用してください。
- この製品の入力電圧はAC20～30VまたはAC40～60Vです。AC入力電圧が規定値であることをテスタなどで確認後使用してください。
- 出力端子の通電電流容量は10A以下、また電源入力端子は12A以下となっていますから、必ずこれ以外で使用してください。
- 光受信器本体を1.6φの銅線でアースしてください。
- 脱落防止のため、蓋締付ボルトは十分緩んだ後は手で緩めてください。
- 蓋をする場合は防水パッキンが曲がっていないことを確かめ、蓋締付ボルトで締め付けてください。また取り付けや調整の際に雨水や湿気が光受信器内部に入ったときは、水分をよく拭きとってから蓋をしてください。
※防水パッキンにはシリコングリスなどを一切塗布しないでください。
※蓋締付トルクは1200N・cm（約120kgf・cm）で均一にしてください。
- 使用しない電源端子は必ずシリコングリスを塗布したメクラネジでしっかりふさいでおいてください。
※メクラネジの締付トルクは1200N・cm（約120kgf・cm）で締めてください。
- 本体給電する場合は、必ず同軸ケーブルで給電してください。
- 板壁面へ取り付けける場合は、別売の壁面取付金具をご使用ください。

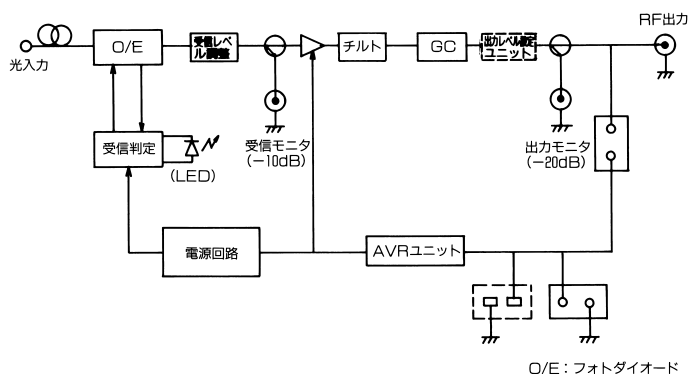


使用上のご注意

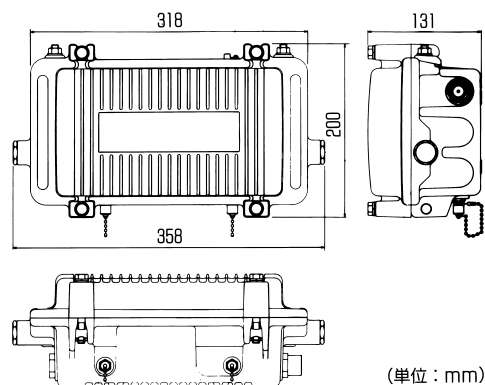
品 名	CATV用光受信器	品 番	ORX-3001
伝 送 周 波 数 帯 域 (MHz)	70～250	X M (dB)	-66以下※
伝 送 波 数	TV11波	H M (dB)	-70以下※
使 用 光 フ ァ イ バ	シングルモード光ファイバ(SM 10/125)	C S O (dB)	-60以下※
光 波 長	1.3μm帯	R F 入 カ レ ベ ル (dBμ)	85±5 (フラット)
伝 送 方 式	AM-FDM方式	使 用 温 度 範 囲 (°C)	-20～+40
光 入 カ レ ベ ル (dBm)	-3～+1	消 費 電 力 (VA)	22～35 (AC40～60V) 21～30 (AC20～30V)
出カインピーダンス (Ω)	75(FT形)	電 源 電 圧 (V)	AC40～60またはAC20～30
光 コ ネ ク タ	FC/SPC(入力)	外 形 寸 法 (mm)	200(H)×358(W)×131(D)
C / N (dB)	52 (標準) ※	質 量 (kg)	4.6
I M ₂ (dB)	-65以下		

※) OTX-3001と対で使用時のシステム性能です。
規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。各部の名称

ブロックダイアグラム



外形寸法図



詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

・札幌支店 TEL.(011)822-1251(代)	・新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代)	・三重出張所 TEL.(059)226-1643(代)	・高松営業所 TEL.(087)868-1222(代)
・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代)	・茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代)	・金沢支店 TEL.(076)261-9988(代)	・松山営業所 TEL.(089)925-3826(代)
・東北支店 TEL.(022)243-2141(代)	・千葉支店 TEL.(043)253-1121(代)	・富山営業所 TEL.(076)422-7878(代)	・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代)
・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代)	・木更津出張所 TEL.(0438)23-6281(代)	・大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代)	・福岡支店 TEL.(092)541-0168(代)
・郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代)	・柏出張所 TEL.(04)7192-1681(代)	・堺営業所 TEL.(072)278-5311(代)	・北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代)
・東京支店 TEL.(03)3526-5402(代)	・静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代)	・京都営業所 TEL.(075)382-6141(代)	・長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代)
・多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代)	・浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代)	・神戸支店 TEL.(078)579-8550(代)	・大分営業所 TEL.(097)504-7799(代)
・横浜支店 TEL.(045)651-2557(代)	・中部支店 TEL.(052)919-6531(代)	・姫路出張所 TEL.(079)283-5920(代)	・熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代)
・厚木出張所 TEL.(046)225-6102(代)	・松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代)	・広島支店 TEL.(082)237-5331(代)	・南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代)
・埼玉支店 TEL.(048)652-3311(代)	・豊橋営業所 TEL.(0532)69-2370(代)	・岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代)	・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代)
・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代)			

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代) 東京支社/〒101-0021 東京都千代田区外神田4丁目11番5号 船井ビル TEL.(03)3526-6327(代)
 カスタマーセンター TEL.(078)682-0455 受付時間 9:30～12:00/13:00～17:00(土曜・日曜・祝日および夏季休暇・年末年始は除く)
 ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>